

## バイオメカニクス

担当教員 加藤 浩

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

バイオメカニクスは、身体運動のメカニズムを力学的側面から究明する学問である。実際に臨床現場あるいはスポーツ現場では、対象者やスポーツ選手の姿勢・動作分析を行う際、バイオメカニクス等の知識を用いて障害構造の評価、運動能力の評価、そして治療プログラムを立案を進めている場合が多い。人が「歩く」、「走る」、「跳躍する」等ということはバイオメカニクスの視点から見れば、どのような意味があるのか？身体運動・動作のメカニズムを生体力学の観点から科学的に説明出来ることを目標とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	力とは何か？「ベクトル」
3	身体に働く力「万有引力から重力を捉える」
4	身体働く力「重力加速度」
5	身体に働く力「重力実技（動作分析の基礎）」
6	身体に働く力「重力実技（起き上がりの動作分析）」
7	身体に働く力「運動の3法則」
8	身体に働く力「床反力」
9	身体に働く力「床反力と摩擦力」
10	身体に働く力「筋力」
11	身体に働く力「筋パワー」
12	身体に働く力「外部関節モーメント」
13	身体に働く力「内部関節モーメント」
14	身体に働く力「関節パワー」
15	身体に働く力「床反力実技」

### 【履修上の注意事項】

講義では時間の制約上、広く浅く講義することとなる。バイオメカニクスは動作分析・姿勢分析を実践する上で必要不可欠な重要な科目の1つであることから、学生の十分な予習、復習が必要である。

### 【評価方法】

定期試験を100%として評価する。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

Kirsten Gotz-Neumann：観察による歩行分析．医学書院，東京，2005，2．江原義弘・山本澄子：ボディダイナミクス入門 歩き始めと歩行分析．医歯薬出版．2002

## 医療福祉論

担当教員 後藤 秀昭

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

1. 医療保険制度（診療報酬に関する内容も含む）の概要を理解できる。
2. 医療ソーシャルワークの専門援助活動を理解できる。
3. 保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける多職種協働を理解できる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	戦後の保健医療サービスの整備・拡充の歴史を理解させる。
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題(医療費に関する政策動向)を理解させる。
3	多様な居住の場における在宅療養やターミナルケアを支援する診療報酬制度を理解させる。
4	自立支援医療、公費負担医療制度の概要を理解させる。
5	医療施設の機能・類型を理解させる。
6	介護保険制度(介護施設の基準・類型)と介護報酬制度の概要を理解させる。
7	医療、保健、介護の連携による在宅支援のシステムを理解させる。
8	医療ソーシャルワーカーと各専門職の視点と役割の実際を理解させる。
9	インフォームドコンセントの意義と実際を理解させる。
10	医療ソーシャルワーカーの歴史、資格化の議論、業務の枠組みを理解させる。
11	ミクロ、メゾ、マクロの視点から医療ソーシャルワーク業務の内容を理解させる。
12	医療連携やチーム医療の推進について、社会福祉士や精神保健福祉士の役割や業務を理解させる。
13	医師、保健師、看護師等の医療チームアプローチや機関・団体との連携方法と実際を理解させる。
14	地域の社会資源との連携について、その方法や実際を理解させる。
15	地域包括ケアにおける保健医療サービスの位置づけと役割 について理解させる。

## 【履修上の注意事項】

毎回講義資料を配布するので、授業後はその資料をもう一度通読し、テキストの内容も参照しながら復習し、理解を深めること。

また、講義資料は前回の授業時に予め配布しておくので予習をしておくこと。

## 【評価方法】

定期試験（100％）で評価する。

## 【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『保健医療サービス』中央法規（最新版）

## 【参考文献】

講義時、適宜紹介する。

## 国際保健論

担当教員 未定

配当年次 4年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

“国境を越えた公衆衛生”と定義されていた「国際保健」を取り巻く状況は、近年、大きく変化してきた。本講義では、環境や社会的、文化的要因を踏まえたうえ、世界における健康問題を研究する「国際保健」という学問分野をアプローチする。また、多彩なフィールド研究を通じ、国家試験対策ポイントも解析する。さらに、新型インフルエンザ、エイズ、マラリアなどの感染症をはじめ、国際保健現場からの感染症対策に関する実例を用いてその実践と評価を学習し、国際保健活動における必要な能力を身につけ、自ら実践できるようになる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	世界への扉—国際保健学
2	途上国における健康問題
3	環境、開発と医療人類学
4	プライマリー・ヘルス・ケア (PHC) とミレニアム開発目標
5	国際保健における国際疫学
6	プロジェクトマネジメントと人材育成
7	人口問題 1 : 世界の人口
8	人口問題 2 : 中国一人っ子政策の是正
9	日本の経験から見た途上国における家族計画と母子保健
10	災難、環境変動の脅威と感染症
11	新興、再興感染症 (1) : 新興、再興感染症の概論
12	新興、再興感染症 (2) : SARSについて学ぶ
13	新型インフルエンザのパンデミックから学ぶ
14	世界におけるHIV/AIDSのアップデート
15	試験

## 【履修上の注意事項】

授業後に復習しておくこと。

## 【評価方法】

講義中課題への取り込み(30%)・期末レポート(70%)により総合的に評価する。

## 【テキスト】

日本国際保健医療学会編「国際保健医療学」杏林書院

## 【参考文献】

高橋茂樹等編 「公衆衛生」第九版 海馬書房

Paul F. Basch 「Textbook of International Health」Oxford university press

## 解剖生理学 I

担当教員 山下 忍

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

人体各部の巨視的な構造（肉眼解剖学）に重点を置いて勉強できるようになる。たとえば心臓はある構造をしていて、機能的には血液を送り出す役割を理解できるようになる。構造と機能は密接に関連していて本来は切り離せないが、本講義では特に構造を理解できるようになる。

## 【授業の展開計画】

- 1、解剖学の基礎について説明できる
- 2、上肢の骨格筋と骨格について説明できる
- 3、下肢の骨格筋と骨格について説明できる
- 4、脳頭蓋の特徴について説明できる
- 5、心臓について説明できる
- 6、動脈の特徴について説明できる
- 7、静脈系の特徴について説明できる
- 8、リンパ管の特徴について説明できる
- 9、神経の特徴について説明できる
- 10、脳の神経構造について説明できる
- 11、脳神経の特徴について説明できる
- 12、中枢神経系の特徴について説明できる
- 13、脊髄神経の特徴について説明できる
- 14、末梢神経系の特徴について説明できる
- 15、骨格筋に分布する神経について説明できる

## 【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。  
復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。  
授業後オリジナル出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。

## 【評価方法】

小テスト（60%）、自主的学習態度（10%）、課題レポート（30%）による総合評価

## 【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

## 【参考文献】

解剖学アトラス 越智淳三（文光堂）

## 解剖生理学Ⅱ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

生き物が生きていく仕組み(生理学)を原子、分子、細胞、組織、器官および個体レベルで学習します。教科書に準拠して講義を進めるので、十分に教科書を読んで下さい。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して、他人に解説できるようになること。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	生体の化学構成——生体と水	二科
2	体液とその区分	二科
3	細胞の構造——核、細胞内小器官、細胞膜	二科
4	血液成分とその役割	二科
5	生体防御の機構	二科
6	栄養の消化と吸収——栄養素の種類とその役割	二科
7	栄養の消化と吸収——口腔、咽頭、食道の構造と機能	二科
8	栄養の消化と吸収——胃、腸の構造と機能	二科
9	膵臓、肝臓の構造と機能	二科
10	呼吸の仕組み	二科
11	呼吸の仕組み	二科
12	血液と体液の循環	二科
13	腎臓と体液の調節	二科
14	神経系と内分泌系の役割	二科
15	感覚系の構造と機能	二科

## 【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

## 【評価方法】

期末試験(100%)により判定する。

## 【テキスト】

解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

## 【参考文献】

なし。

## 解剖生理学Ⅲ

担当教員 山下 忍

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

本講座では前半は内臓系として消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器の構造と機能について把握できるようになる。後半は内分泌系、感覚器の構造とその働きについて把握できるようになる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	消化器の口腔内および咽頭の組織学的特徴と構造について説明できる
2	食道と胃の構造と機能について説明できる
3	小腸と大腸尾構造と機能について説明できる。
4	肝臓、膵臓の構造と機能について説明できる。
5	呼吸器の構造と機能について説明できる。
6	泌尿器の構造と働きについて説明できる。
7	生殖器の構造と機能について説明できる。
8	内分泌系の機能と働きについて説明できる
9	感覚器の皮膚の構造と機能について説明できる。
10	視覚器の構造と機能について説明できる。
11	聴覚器の構造と機能について説明できる。
12	味覚器の構造と機能について説明できる。
13	嗅覚器の構造と機能について説明できる。
14	特殊感覚系の神経支配について説明できる。
15	体表解剖学から見た人体の構造について総合的に説明できる。

## 【履修上の注意事項】

予習として教科書で予告した内容を十分に把握しておくこと。  
 復習として授業内容中の指示された図をスケッチすること。  
 授業後オリジナル出席カードの備考欄に授業の内容および感想を必ず書くこと。

## 【評価方法】

小テスト (30%) 自主的学習態度 (10%)、課題レポート (30%) による総合評価

## 【テキスト】

解剖生理学(人体の構造と機能Ⅰ) 坂井建雄 岡田隆夫 医学書院

## 【参考文献】

解剖学アトラス 越智淳三 (文光堂)

## 生化学

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

生化学とは諸々の生命現象を化学的に解明する学問である。生体を構成する化学物質は多様であり最初は戸惑うであろうが、勉強しているうちに馴染めるものであるから落ち着いて取り組んでほしい。適切な教科書を指定するので、諸君は教科書内容の7割程度は理解して、他人に解説出来るようになること。

### 【授業の展開計画】

- |                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 1、始めに（元素間の結合様式等、原子一分子に関する基礎的なことについて） | 二科 |
| 2、生体構成成分の構造と機能（糖質の化学）                | 二科 |
| 3、生体構成分子の構造と機能（糖質の化学）                | 二科 |
| 4、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）                | 二科 |
| 5、生体構成分子の構造と機能（脂質の化学）                | 二科 |
| 6、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）        | 二科 |
| 7、生体構成分子の構造と機能（アミノ酸とタンパク質の化学）        | 二科 |
| 8、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）                | 二科 |
| 9、生体構成分子の構造と機能（核酸の化学）                | 二科 |
| 10、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）             | 二科 |
| 11、生体構成分子の構造と機能（ビタミンの化学）             | 二科 |
| 12、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）                  | 二科 |
| 13、代謝（エネルギー代謝、糖質代謝）                  | 二科 |
| 14、代謝（脂質代謝、アミノ酸代謝、タンパク質代謝）           | 二科 |
| 15、核酸とタンパク質の生合成、まとめ                  | 二科 |

### 【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

### 【評価方法】

期末試験(100%)の成績で判断する。

### 【テキスト】

『コンパクト生化学』 大久保岩男、賀佐伸省 著 南江堂

### 【参考文献】

解剖生理学(人体の構造と機能[1]) 医学書院

## 医用工学

担当教員 樋口 マキエ、千場 梅子、羽手村 昌宏、肥合 康弘、富吉 勝美、荒木 不次男

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- 1) 放射線による検査と治療の基礎を学び、質の高いケアを可能にする。これらの医療行為には、患者の理解と協力が必要で、医療従事者による患者指導が果たす役割は大きい。医療従事者が、診療の目的・内容・方法をよく理解し、適切な前処置や介助を行えば、十分な診療情報が得られ、よい治療効果を可能にする。
- 2) 臨床検査の基礎知識と意義を学ぶ。患者の状態を正しく診断するうえで不可欠の手段となっている臨床検査の全体像と意義を総合的に理解し、医療従事者の役割を正しく把握する。

## 【授業の展開計画】

## 【授業の順番と内容】

## 【授業担当者・日程】

## 放射線と臨床利用

平成29年(月9:10-10:40)

1. 放射線概論：放射線の特性、医療被曝、放射線防護を正しく理解する。  
また、放射線診療のあり方と実際の診療内容の知識を得る。 羽手村 9-25月
2. 放射線画像：CT, MRI：CTとMRIの原理と特徴を理解し、実際の診療内容を知る。 羽手村10-02月  
また造影剤の特性も理解する。
3. 放射線画像：放射線画像の成立過程を理解し、いろいろな画像検査の目的と方法を習得する。 肥合10-10火
4. 核医学：安定同位体と放射性同位体の種類と性質、放射性標識化合物の種類と性質を 富吉10-16月  
理解する。放射性薬剤の臨床応用と看護師の役割を理解する。
5. 核医学：同上 富吉10-26木
6. 放射線治療学：悪性腫瘍の治療における放射線療法の役割について理解し、放射線治療の原理（メカニズム）と実際の照射技術や放射線治療の副作用、最新の放射線治療法について解説する。 荒木10-30月
7. 放射線治療学： 荒木11-06月

## 臨床検査

平成29-30年（水13:10-14:40）

8. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口11-15月
9. 生理機能検査：循環生理機能検査 樋口11-22水
10. 臨床検査総論：臨床検査の種類およびその役割と評価基準 千場11-29水
11. 臨床検査総論：臨床検査の流れと看護師の役割、検体採取、保存法、感染防止、系統別臨床検査の進め方 千場12-06水
12. 臨床検査各論：一般検査、 千場12-13水
13. 臨床検査各論：血液検査、(検体検査) 化学検査 千場12-20水
14. 臨床検査各論：免疫・血清検査、ホルモン検査 千場 1-10水
15. 臨床検査各論：微生物検査、病理検査 千場 1-17水

## 16. 単位修得試験

樋口・千場 1-31水

## 【履修上の注意事項】

- 1) 医用工学の学習ノートを各自用意し、講義内容の要点を書き留め、その日の内に整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え理解する。意味が解らない時は質問する。
- 3) 「放射線と臨床利用」には『臨床放射線医学』を、「臨床検査」には『臨床検査』の教科書を持参する。
- 4) 数値の単位を理解する。

## 【評価方法】

筆記期末試験（100＝放射線と臨床応用47％＋臨床検査53％、但し原則として、両分野とも6割以上の得点で合格とする）。前提条件は、2/3以上の出席である。

## 【テキスト】

『臨床放射線医学』 福田国彦他9名 著、系統看護学講座 別巻、医学書院

『臨床検査』 奈良信雄 編集、系統看護学講座 別巻、医学書院

## 【参考文献】

『臨床検査法提要』改訂版 金井正光 編著、金原出版

『解剖生理学』 坂井建雄 岡田隆夫 著、系統看護学講座、医学書院



## 生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

○食物と健康という観点から、基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。

なお、医療専門職として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食事指導を効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食と環境)
2	食生活の課題(食習慣と栄養・スポーツと栄養 栄養状態の評価と方法)
3	日本人の食事摂取基準(栄養素別基準・食品群別摂取量・摂取エネルギーの算定・活動代謝)
4	栄養指導・保健指導(栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは)
5	栄養素の機能と代謝(1)炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝(2)脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝(3)ビタミン・無機質の機能と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収(食欲・消化の調節・栄養素の吸収)
9	ライフステージと栄養(妊娠・授乳期期・乳幼児期・)
10	ライフステージと栄養(学童期・思春期)
11	ライフステージと栄養(成人期・老年期)
12	病態時の栄養(1)栄養障害・疾患別食事指導の実際
13	病態時の栄養(2)疾患別食事指導の実際
14	病態時の栄養(3)疾患別食事指導の実際
15	病態時の栄養(4)疾患別食事指導の実際(経管栄養と中心静脈栄養・NST)

## 【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること。

## 【評価方法】

筆記試験85% 課題レポート10% 学習態度5%

## 【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

## 【参考文献】

わかりやすい栄養学(三共出版) 基礎栄養学(第一出版) 日本人の食事摂取基準(2015年版) 七訂補日本食品成分表 国民衛生の動向29年度 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表 応用栄養学(医歯薬出版)

## 口腔解剖学

担当教員 松岡 祐一郎

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

‘食べること’は、生きることの根源である。また‘食べること’は、楽しみを生み、コミュニケーションの場となる文化的な行為である。本講義では、消化器の入り口である口腔領域の解剖、機能を学ぶ。さらに、高齢者や脳梗塞などの後遺症で摂食・嚥下機能障害を持つ方々に対して、正しい口腔ケアとリハビリテーションを提供できるように理解を深める。

### 【授業の展開計画】

口腔領域の解剖と機能について

週	授 業 の 内 容
1	口腔解剖学総論
2	永久歯総論
3	永久歯各論Ⅰ（エナメル質、象牙質、セメント質）
4	永久歯各論Ⅱ（歯髄）
5	歯の鑑別
6	乳歯総論、各論
7	歯の異常
8	口腔の構造
9	咽頭・喉頭
10	頭頸部の硬組織
11	頭頸部の脈管
12	頭頸部の筋
13	頭頸部の神経
14	口腔粘膜
15	歯周組織

### 【履修上の注意事項】

授業の内容を授業で用いたプリントならびに教科書を用いて不明な語句を調べて、復習すること。

### 【評価方法】

レポート30%、学期末試験70%

### 【テキスト】

「新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・口腔解剖学 第2版」高橋和人 他著、医歯薬出版

### 【参考文献】

「最新歯科衛生士教本 障害者歯科」森崎市治郎 他著、医歯薬出版

「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」森戸光彦 他著、医歯薬出版

## 口腔組織発生学

担当教員 中川 純泰

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

## 【授業のねらい】

歯や歯周組織、口腔粘膜といった口腔組織の正常構造や組織学的構造を理解することができる。また、それらの構造がどのように成り立っているのか、発生に段階より理解し、口腔領域の専門家として、これからの歯科医療を引っ張っていくことができる。

## 【授業の展開計画】

1. 口腔組織学ならびに発生学総論
2. 口腔組織の構造
3. 頭頸部の発生学
4. 細胞構造と線維芽細胞
5. 歯周組織、口腔粘膜
6. 歯と支持組織の組織発生
7. 唾液腺、顎関節の組織発生
8. 発生学を臨床に活かす。

## 【履修上の注意事項】

出席率60%未満の者は単位認定試験の受験不可

## 【評価方法】

単位認定試験で評価する。

## 【テキスト】

歯科衛生士教本 組織発生 第二版

## 【参考文献】

口腔組織・発生学 脇田稔 編集代表／前田健康、山下靖雄、明坂年隆 編著 医歯薬出版

## 口腔生理学

担当教員 福泉 忠興

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

### 【授業のねらい】

口腔生理学は、口腔を構成する諸器官の生命現象、機能を研究し、それらに存在する法則性を明らかにする生理学の一分野である。口腔生理学では、複雑な口腔各器官の生理的メカニズムを理解できることを目標とする。また、口腔顔面領域の諸機能は身体の他の部位から独立して営まれているのではないので、全身機能との関連性を理解できることも大切である。

### 【授業の展開計画】

1. 口腔生理学を学ぶにあたっての基礎事項
2. 歯と口腔の感覚
3. 味覚と嗅覚
4. 咬合と咀嚼・吸啜（下顎位、下顎運動）
5. 咬合と咀嚼・吸啜（顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸啜）
6. 嚥下と嘔吐
7. 唾液
8. 発声

### 【履修上の注意事項】

各項目ごとに講義の後、小テストを行うので講義中は集中して受講すること。  
講義内容が難しいため、復習は必須である。

### 【評価方法】

学期末試験（筆記試験）（100%）による評価

### 【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学  
全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版株式会社）

### 【参考文献】

なし

## 口腔生化学

担当教員 田中 みどり

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

生命の営みは、生体を構成している化学的成分の化学的反応によって行われている。口腔は単なる身体の一器官ではなく、生命活動に必要なエネルギー源を体内に取り込む大切な器官である。口腔生化学で修得する基本知識は、口腔器官の構成成分や、口腔の健康を維持するメカニズムであり、日常臨床において口腔疾患の発病・病態との因果関係を洞察し理解する上で歯科衛生士にとって基礎をしっかり身に付ける必要がある。

## 【授業の展開計画】

1口腔生化学基礎①

2口腔生化学基礎②

※口腔生化学に必要な生化学の知識を復習する。

3歯と歯周組織

※どのような構成をしているのかを学ぶ。

4石灰化とカルシウム代謝

※カルシウムが歯や骨にどう関わるのかを学ぶ。

5唾液と唾液腺

※唾液の成分や役割を学ぶ。

6歯面への付着物

※バイオフィルムの成り立ちや構成を知る。

7う蝕と歯周疾患の成り立ちと予防

※歯科衛生士としてこれから関わるう蝕や歯周疾患を知り、予防を理解する。

8まとめ（試験対策）

## 【履修上の注意事項】

講義中に要点プリントを配布するので必ず出席して下さい。  
また、講義後は復習が必要なので、配られたプリントを含めたノートを作成すること。

## 【評価方法】

期末試験(100%)

試験不良者は再試験および講義ノートもしくはレポート提出にて再評価する。

## 【テキスト】

最新 歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社

## 【参考文献】

\*スタンダード生化学・口腔生化学 安孫子宜光他 学建書院

\*口腔生化学サイドリーダー 金森孝雄 学建書院

## 病態生理学 I

担当教員 新任教員、樋口 マキエ、大河原 進

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明し、病理学は、疾病の原因、機序、診断を明らかにする学問である。病態生理学 I では、疾病の成り立ちを基本的な機序によって整理し、その結果引き起こされる組織や臓器の変化における正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成立の基礎を身につける。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	病理学入門、代謝障害（1）細胞傷害と変性・壊死	(大河原)
2	代謝障害（2）脂質代謝、タンパク質代謝、糖質代謝、他	(掃本)
3	循環障害（1）局所性の循環障害	(大河原)
4	循環障害（2）全身性の循環障害	(大河原)
5	腫瘍（1）腫瘍の定義と分類、発生原因	(大河原)
6	腫瘍（2）腫瘍の発生病理、転移と進行度	(大河原)
7	腫瘍（3）腫瘍の診断	(大河原)
8	腫瘍（4）腫瘍の治療	(大河原)
9	腫瘍（5）腫瘍の診断と治療（化学療法）	(樋口)
10	炎症と免疫（1）炎症、免疫	(掃本)
11	炎症と免疫（2）アレルギーと自己免疫疾患、膠原病	(掃本)
12	先天異常（1）先天異常、遺伝子異常、遺伝性疾患	(掃本)
13	先天異常（2）染色体異常、胎児の障害、診断	(掃本)
14	生活習慣病と疾患	(掃本)
15	遺伝要因と環境要因からみた疾患の成り立ち	(掃本)

## 【履修上の注意事項】

多くの専門用語が出てくるので、必ず教科書を予習してくること。復習も必ず行うこと。

## 【評価方法】

筆記試験で評価する。筆記試験60点以上を合格とする。

## 【テキスト】

(系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [1]「病理学」、大橋健一ほか編、医学書院

## 【参考文献】

1. 新クイックマスター「病理学」、堤寛監修、医学芸術社
2. 図解ワンポイントシリーズ3、「病理学 疾病のなりたちと回復の促進」、岡田英吉、医学芸術社

## 病態生理学Ⅱ

担当教員 新任教員、牛島 正人、田宮 貞宏

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。機序の視点から総論的に学んだ病態生理学Ⅰと視点を変え、本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を理解し、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	呼吸器①（呼吸器感染症）	（牛島）
2	呼吸器②（アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患）	（牛島）
3	呼吸器③（間質性肺炎、気道系疾患、肺腫瘍）	（牛島）
4	呼吸器④（肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜・縦隔疾患）	（牛島）
5	神 経①（脳血管障害）	（熊本）
6	神 経②（変性疾患、脱髄性疾患）	（熊本）
7	神 経③（神経筋接合部、筋疾患、末梢神経、自律神経）	（熊本）
8	神 経④（神経感染症、神経中毒）	（熊本）
9	循環器①（心不全、不整脈、虚血性心疾患）	（福島）
10	循環器②（心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患）	（福島）
11	循環器③（高血圧症、動脈硬化）	（福島）
12	血 液①（赤血球の疾患）	（田宮）
13	血 液②（白血球の疾患、出血性疾患）	（田宮）
14	膠原病/アレルギー（膠原病と関連疾患、全身性アレルギー）	（熊本）
15	感覚器（眼・耳鼻咽喉疾患）、体温・酸塩基平衡の調節異常	（熊本）

## 【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習しておくこと。復習も必ず行うこと。  
なお、「14. その他」は参考文献1.の内容となる

## 【評価方法】

筆記試験で評価する。筆記試験60点以上を合格とする。

## 【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

## 【参考文献】

- 1.（系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2]「病態生理学」医学書院
- 2.「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA

## 病態生理学Ⅲ

担当教員 新任教員、安岡 寛理、未定、こう 健博、和田 孝浩

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

病態生理学Ⅱに引き続き、臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。病態生理学Ⅱと同様に、本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	消化管（1）食道の疾患、胃・十二指腸の疾患	（熊本）
2	消化管（2）大腸の疾患、肛門の疾患	（熊本）
3	肝/胆/膵（1）肝臓疾患	（熊本）
4	肝/胆/膵（2）胆道疾患、膵疾患	（熊本）
5	代謝/栄養（1）糖尿病、メタボリック症候群	（熊本）
6	代謝/栄養（2）痛風、骨粗鬆症、サルコペニア	（熊本）
7	腎/泌尿器（1）糸球体腎炎、続発性腎疾患、その他の腎疾患	（和田）
8	腎/泌尿器（2）泌尿器科疾患、腎不全	（こう）
9	運動器（1）解剖と生理、外傷、骨折、脱臼・捻挫	（安岡）
10	運動器（2）脊椎・脊髄、上肢・下肢、腫瘍、末梢神経麻痺	（安岡）
11	女性生殖器（1）月経困難症、子宮内膜症、不妊症	（片渕）
12	女性生殖器（2）子宮癌、乳癌、性感染症、更年期障害	（片渕）
13	内分泌（1）視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患	（熊本）
14	内分泌（2）副甲状腺疾患、副腎疾患	（熊本）
15	皮膚 湿疹・皮膚炎、皮膚感染症	（熊本）

## 【履修上の注意事項】

内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくることを。復習も必ず行うこと。

## 【評価方法】

筆記試験で評価する。筆記試験60点以上を合格とする。

## 【テキスト】

「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂

## 【参考文献】

1. （系統看護学講座、専門基礎分野）疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院
2. 「臨床病態学 1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA



## 口腔病理学

担当教員 田中 文丸

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

## 【授業のねらい】

病理学は、その疾病の原因、経過および結果を追究し、それらを体系化して理解する事により、疾病の本質を究明する学問であり、基礎医学と臨床医学の架け橋として重要な役割を担っている。

歯科臨床において一翼を担う歯科衛生士としての必要不可欠な疾病の理論や口腔病変の概要を理解するとともに、考える基礎を学ぶ事により社会生活においての問題対応能力を高め、それが臨床現場で役立てられる力を身に付ける。

## 【授業の展開計画】

口腔内の、それぞれの疾病を理解してもらう

1. 歯の発育異常
2. 歯の機械的および化学的損傷
3. 歯の付着物および沈着物
4. 象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化
5. う蝕
6. 歯髄の病変
7. 歯周組織の病変
8. まとめ

## 【履修上の注意事項】

授業の予習及び復習を行うこと

## 【評価方法】

レポート（10%）および学期末試験（90%）による総合評価

## 【テキスト】

新歯科衛生士教本 「病理学」 全国歯科衛生士協議会編集 医歯薬出版

## 【参考文献】

口腔病変の組織診断 山本浩嗣・武田泰典 永末書店

## 感染症学

担当教員 樋口 マキエ、齋田 和孝、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働きについて、② 病気の原因となる微生物（病原微生物）の分類と特性（構造、性質、病原性）について、③ 感染の成立と生体防御機構、代表的感染症の起原菌と臨床症状、特殊な患者における感染症について、④ 医療における感染予防とその方法について学ぶ。⑤ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。

### 【授業の展開計画】

#### 【 授業内容 】

#### 【 授業担当者 】 【 授業日程 】

(H29) 9:10-10:40

- |   |      |                            |
|---|------|----------------------------|
| 1) 感染症学概論、自然免疫と常在正常細菌叢の働                      | (三森) | 4/07 (金)                   |
| 2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構）                | (三森) | 4/14 (金)                   |
| 3) 細菌と感染(特徴)                                  | (三森) | 4/21 (金)                   |
| 4) 真菌と感染、原虫と感染                                | (三森) | 5/12 (金)                   |
| 5) 病原微生物の分類と特性：ウイルスと感染、寄生虫                    | (三森) | 5/19 (金)                   |
| 6) 感染症の診断における臨床検査（小テスト）                       | (三森) | 5/26 (金)                   |
| 7) 感染に対する生体防御機構、ワクチン接種                        | (齋田) | 6/2 (金)                    |
| 8) 感染経路と感染症の症状（臨床像）、医療関連感染とその制御               | (齋田) | 6/9 (金)                    |
| 9) 特殊な患者における感染症（新生児、妊婦、高齢者、がん患者）<br>新興・再興感染症、 | (齋田) | 6/16 (金)                   |
| 10) 化学療法について                                  | (樋口) | 6/23 (金)                   |
| 11) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本                        | (樋口) | 6/30 (金)                   |
| 12) 抗菌薬（抗生物質）                                 | (樋口) | 7/7 (金)                    |
| 13) 抗菌薬（合成抗菌薬）、抗結核薬、抗真菌薬                      | (樋口) | 7/14 (金)                   |
| 14) 抗原虫薬、抗ウイルス薬、殺菌薬                           | (樋口) | 7/21 (金)                   |
| 15) 医療現場における感染防止対策（感染管理認定看護師：熊大附病 特別講師、樋口）    | (樋口) | 7/28 (金)                   |
| 16) 単位修得試験                                    | (樋口) | 8/4 (金) 9:10-10:40 (90min) |

### 【履修上の注意事項】

- 1) 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 3) 教科書①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(4/08～8/05)を精読し自己学習する。  
②「コメディカルのための薬理学 第2版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-(7/08～8/05)
- 4) 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

### 【評価方法】

- 1) 学期末の筆記試験（100%）は、授業時間に比例した配点で評価する。  
講義1～6(40点)、7～9(20点)、10～15(40点)
- 2) 授授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。

### 【テキスト】

- 1) わかる身につく病原体・感染・免疫(藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円)、3) 教員作成プリント
- 2) コメディカルのための薬理学 第2版 (渡辺、樋口/編、朝倉書店 3,900円)-薬理学、病態生理学 I でも使用-

### 【参考文献】

- 1) 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 2) 看護の基礎固め： 6. 微生物学編、4. 薬理学編 (メデイカルレビュー社 各1,600円)

## 口腔微生物学

担当教員 金子 憲章

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

## 【授業のねらい】

「感染症学」で学んだ微生物に関する知識を総論として、口腔という特殊な環境と口腔内に常在する微生物の生態学的特性が説明できる。その上で、口腔の2大疾患であるう蝕と歯周病に関係する細菌を中心に、口腔内細菌の全身疾患との関わり、口腔内症状がみられる感染症、歯科診療上留意すべき感染症に関する内容を説明できる。

## 【授業の展開計画】

1. 細菌の一般的性状、分類、主な病原性細菌（北田）
2. 口腔内環境と口腔内常在菌（北田）
3. 口腔内常在菌による歯垢形成と成熟の過程（北田）
4. 細菌感染症としてのう蝕症、う蝕原性細菌と全身疾患との関連（北田）
5. 歯髄炎・根尖性歯周炎に関連する細菌種、感染経路、症状と細菌との関連、その特徴について（金子）
6. 歯周病原性細菌の種類と特徴、感染の進行による細菌種の変化と症状の特徴について（金子）
7. 歯周病分類別の細菌種の特徴、それに伴う症状と宿主免疫との関連について（金子）
8. 歯周病原性細菌が全身疾患に及ぼす影響、また全身疾患が歯周病に及ぼす影響について（金子）

## 【履修上の注意事項】

講義は教科書を必ず持参する。一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと、また授業後は復習しておくこと。

## 【評価方法】

試験80%、小テスト、レポート等20%

## 【テキスト】

『最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復の過程の促進2 微生物学』全国歯科衛生士教育協議会 監修  
医歯薬出版 一部は講義中に資料配布する。

## 【参考文献】

『デンタルプラーク細菌』奥田克爾 著 医歯薬出版  
『イラストでわかる歯科医学の基礎』淵端 孟 編 永末書店

## 薬理学

担当教員 福泉 忠興

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

薬理学は疾病の治療、予防、診断における合理的な薬物療法を追求する学問である。薬物は疾病の原因除去や、症状緩和を目的に使用されるが、副作用を誘引しない薬物はない。すなわち、薬物の有用な作用だけでなく副作用も認識したうえで、薬物を選択し投与しなければならない。そのためには全身的な疾患に対する幅広い薬物の知識を修得できることが大切である。この講義では、薬理学の基礎的な概念を総論を通じて学習し、各論において個々の薬物の薬理作用を理解することを到達目的とする。

### 【授業の展開計画】

1. 総論（薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序、薬理作用に影響を与える因子、薬物の投与と薬物動態）
2. 総論（薬物の連用、薬物の併用、薬物の有害反応）
3. 総論（医薬品、剤型、処方箋と調剤）
4. 中枢神経系に作用する薬物（中枢性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬）
5. 中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、睡眠剤、抗不安薬）
6. 末梢神経系に作用する薬物（局所麻酔薬）
7. 末梢神経系に作用する薬物（自律神経系に作用する薬物、神経・筋接合部に作用する薬物）
8. 呼吸・循環器に作用する薬物（強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、抗高血圧薬、気管支喘息治療薬、鎮咳薬および去痰薬）
9. 血液と薬（出血と止血、止血薬、血液凝固阻止薬）
10. 抗炎症薬（炎症の経過、炎症とケミカルメディエーター、ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤）
11. ビタミン・ホルモン（脂溶性・水溶性ビタミン、脳下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、脾臓ホルモン）
12. 病原微生物に作用する薬物（各種消毒薬の分類と作用機序、抗生物質分類と副作用、抗生物質の作用機序による分類）
13. 抗悪性腫瘍治療薬（アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗癌抗生物質、ホルモン剤、植物アルカロイド、免疫療法薬）
14. 免疫と薬（免疫増強薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、ワクチン）
15. 服薬指導（コンプライアンス、患者に伝えるべき基本事項、服用時間、薬物相互作用、小児への服薬指導、妊産婦への服薬指導、高齢者への服薬指導、障害者への服薬指導）

### 【履修上の注意事項】

講義内容が難しいため、復習は必須である。

### 【評価方法】

期末試験（筆記試験）（100%）による評価

### 【テキスト】

最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学  
全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版株式会社）

### 【参考文献】

知っておきたい歯科衛生士のためのくすりの知識（デンタルダイヤモンド社）

## リハビリテーション概論

担当教員 川俣 幹雄

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

リハビリテーションの理念、歴史、障害理論およびその関連する制度等について学ぶ。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	リハビリテーションとは（定義、理念、思想）
2	リハビリテーションの歴史
3	リハビリテーションと障害医学
4	障害の理論的モデル：ICIDH
5	障害の理論的モデル：ICF
6	リハビリテーションと関連職種
7	医学的リハビリテーション
8	社会的、職業的リハビリテーション
9	リハビリテーションの対象
10	リハビリテーションと社会制度
11	地域リハビリテーション
12	リハビリテーションと環境整備
13	介護予防とリハビリテーション
14	予防医学とリハビリテーション
15	リハビリテーションを取り巻く環境と今後の課題

## 【履修上の注意事項】

事前にテキストの該当箇所を学習し、授業に臨むこと。復習をしっかりと行うこと。

## 【評価方法】

期末試験100%で評価する。

## 【テキスト】

『医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論最新版』 上好秋孝、編著（永井書店、）

## 【参考文献】

『入門リハビリテーション概論』中村隆一編（医歯薬出版）、『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修（医歯薬出版）、『社会福祉小六法』（ミネルバ書房）、『リハビリテーション』（砂原茂一（岩波書店 - 139）など

## 医事法規

担当教員 野崎 和義

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- 1 医療行為を中核とする現行医事法制の中で、歯科衛生士の法的位置づけを理解する。
- 2 医療専門職に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。
- 3 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。
- 4 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市民の法と専門職の法——市民法の基礎、歯科衛生士の法的位置づけ
2	医療職と法——守秘義務と個人情報保護の保護、三層の法構造
3	医療の独占——医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散
4	治療行為と同意（1）——医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト
5	治療行為と同意（2）——家族による同意、成年後見制度と治療同意権
6	診療の補助と医師の指示——具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール
7	歯科衛生士の業務範囲——歯科衛生士の業務、「歯科診療の補助」と医療行為
8	医療職と刑事責任（1）——終末期医療と家族
9	医療職と刑事責任（2）——チーム医療と信頼の原則、異常死体等の届出義務と黙秘権
10	チーム医療と民事責任（1）——民事責任の構造、医療従事者の注意義務
11	チーム医療と民事責任（2）——歯科衛生士の過失、実習生による事故とその対応
12	医療過誤と訴訟——訴訟の目的とその限界、医療ADRの取り組み
13	看護師と労働法——労働契約の特殊性、院内暴力・セクハラ
14	医療制度と法——医療制度改革、医療法の改正
15	コメディカルの業務と責任——医療従事者の義務、医事法の構造と射程

## 【履修上の注意事項】

- ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。
- ・事後学習：講義で示された課題をもとに教科書および関連事項を整理すること。
- ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。

## 【評価方法】

定期試験（100%）の成績によって評価する。

## 【テキスト】

野崎和義著『医事法学概論』2011年、ミネルヴァ書房。  
野崎和義監修『社会福祉六法』2017年、ミネルヴァ書房（過年度版でも可）。

## 【参考文献】

各回の講義の際に適宜紹介する。

## 保健社会論

担当教員 新任教員

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ① 現在の保健医療問題（高齢化の進展、国民医療費の増大、医療技術の変化、健康観の変化など）の実態と問題発生 の要因について理解する。
- ② 保健・医療・福祉の専門職とその役割について理解する。
- ③ 保健医療問題の解決に社会がどのように取り組んでいるか理解する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健社会学とは何か。健康をどのようにとらえるか。
2	保健社会学の対象と方法。どのような健康問題にどのような方法で取り組むのか。
3	疾病構造はどのように変化し、人々の健康観はどのように変化しているのか。
4	保健行動とは何か。
5	患者（利用者）と保健医療従事者の関係、とくに患者と医師関係を中心に関係性をみる。
6	看護師と保健師の役割は何か。
7	地域保健医療のシステムとそのあり方を巡る課題は何か。
8	保健医療問題と患者・住民の関わりをみる。
9	家族の変化に伴って介護・看護サービスはどのように変化してきたか。
10	医療供給の仕組みとそこに所在する問題とは何か。
11	ヘルスプロモーションの考え方とは何か。どのように発展してきたか。
12	わが国と諸外国のヘルスプロモーションの取り組みはどのようになっているか。
13	健康都市づくり運動の展開とは何か。
14	保健社会学の課題と展望を地域の健康問題から探る。
15	まとめと確認

## 【履修上の注意事項】

健康問題は高齢化、国際化、技術革新などに伴って多様化してきている。そこで日常報道される健康問題の内容には関心を払ってもらいたい。講義後は、現実の社会問題について新聞や文献で理解を深めること。

## 【評価方法】

- ① レポートやミニレポートを頻回に行う予定なので、出席を心がけること。
- ② 評価の方法は、レポート20%、試験80%の割合で行う。

## 【テキスト】

使用しない。資料は必要に応じて配布する。

## 【参考文献】

授業の中で指示する。

## 地域保健論

担当教員 新任教員

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

健康の問題は、健康づくり、疾病の予防、疾病の治療、リハビリテーションの各レベルにおける個人や社会の対応の問題として捉えられるが、近年その解決に当たっては、地域社会を基盤として取り組むことが高まってきている。そこで、本講義では、①地域社会の変容およびそれに付随して発生している地域の多様な健康問題について理解を深めること、②地域社会における健康対策の考え方や地域保健活動の重要性について理解し、③地域保健を推進するための能力を養うこと、を目標としている。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 地域保健について
2	地域社会と健康問題 都市化社会と健康
3	地域社会と健康問題 生活意識と健康
4	健康問題の変容とその対策の変化
5	地域保健に関わる圏域の設定と課題
6	地域保健活動に関わる主体と特徴
7	保健・医療・福祉と市町村の役割
8	保健・医療・福祉に関する計画
9	保健・医療・福祉の連携と統合 供給体制の統合化
10	保健・医療・福祉の連携と統合 具体的展開
11	世界と日本における健康づくり活動（ヘルスプロモーション）の動向
12	健康都市づくり（ヘルシー・シティ）の考え方
13	健康都市とその活動事例
14	健康日本21と健康増進法
15	地域保健活動推進の方法、プリシード・プロシードモデル

### 【履修上の注意事項】

日々報道される健康問題のニュースに関心を払うことが望ましい。また、受講の前にはシラバスに沿って該当する内容に関連する項目当について学習することが望まれる。

### 【評価方法】

- ①レポートの提出、期末試験の総合点で判定する。したがって、受講する学生は、講義に必ず出席し、課題についてもきちんと提出するように心がけること。
- ②評価の方法は、レポート10%、試験90%の割合で行う。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献】

必要に応じて資料を配布する。参考書については、適宜講義の中で指示する。



## 精神保健 I

担当教員 茶屋道 拓哉

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ・精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について説明できるようになる。
- ・精神保健を維持・増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について基礎的知識を備える。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神保健の概要
2	精神保健の歴史と現代における意義・課題
3	社会構造の変化と新しい健康観
4	ライフサイクルと精神の健康（出生前～思春期）
5	ライフサイクルと精神の健康（青年期～老年期）
6	ストレスと精神の健康
7	生活習慣と精神の健康
8	精神の健康、精神疾患、身体疾患に由来する障害
9	アルコール関連問題と精神保健
10	うつ病と自殺防止対策
11	現代社会を取り巻く諸相と精神保健（長寿・認知症・少子化を巡って）
12	精神の健康に関する心的態度
13	精神保健に関する予防の概念と対象
14	精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体などの役割と連携
15	精神保健に関する専門職種

## 【履修上の注意事項】

- 1 必ず講義ノートを作成すること。また、配布するプリントをファイル化し毎回持参することが必要である（配布資料は何回か使用する可能性がある）。
- 2 授業前にテキストの該当部分を一読しておくこと。
- 3 授業後に配布された資料や講義ノート・テキスト等を用い振り返りを行いながら理解を深めること。

## 【評価方法】

- 1 試験による評価（70%）
- 2 授業中のレスポンスやミニレポート（30%）

## 【テキスト】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健学（第6版）』へるす出版，2017年

## 【参考文献】

各講義ごとに主要文献を紹介する

## 健康相談論

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

児童生徒の心の健康問題が深刻化し、学校の保健室でも心身両面の対応が養護教諭によって行われていることを理解する。また養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした相談活動としての「健康相談」についての理論と方法について学習し、具体的に子どもの状態のとらえ方と対応について述べることができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	児童生徒の心身の健康問題の現状と背景/健康相談の基本的理解
2	養護教諭の職務の特質及び保健室の機能と健康相談
3	健康相談と健康相談活動（学校保健安全法との関連）
4	健康相談に関連する諸理論
5	健康相談のプロセス
6	ヘルスアセスメントについて
7	健康相談における子ども理解の方法(演習含む)
8	健康相談での心理的理解
9	健康相談における連携
10	諸問題の捉え方と関わり方
11	諸問題への具体的な対応について（事例研究の目的）
12	事例から相談支援を具体的に学ぶ① 疾病を伴う事例
13	事例から相談支援を具体的に学ぶ② 生活上での課題等様々な課題事例
14	保健室登校と不登校の捉え方と対応
15	健康相談における記録、力量形成・研究・研修

## 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について調べておくこと。  
授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

## 【評価方法】

レポート30%、まとめのテスト70%として評価する

## 【テキスト】

養護教諭の行う健康相談 東山書房

## 【参考文献】

## 学校保健

担当教員 古賀 由紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

児童生徒の発育・発達、健康そして学校教育法につながる指導要領等の教育の基礎を把握するとともに、児童生徒の実態から、保健教育・保健管理・組織活動の諸活動を考える。これら学校保健活動の計画と組織を教育計画と学校組織との関連でとらえ、教育の中の学校保健の全貌について説明できる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	学校保健概論・学校保健と関連法、学校保健の目的、学校保健の構造
2	学校保健概論・学校保健の歴史、社会情勢との関連
3	学校保健計画・学校教育目標との関連、保健室経営との関連
4	学校保健組織活動・学校保健関係者と各々の職務、学校保健組織と運営、関連組織
5	学校保健の対象・児童生徒の発育発達の現状と課題
6	学校保健の対象・健康の基礎理論
7	学校保健の対象・心の健康問題、精神保健
8	学校保健活動・保健管理：領域側面、意義、方法
9	学校保健活動・保健管理：健康観察、健康相談
10	学校保健活動・保健管理：健康診断、保健調査
11	学校保健活動・保健管理：学校環境衛生
12	学校保健活動・保健管理：感染症予防
13	学校保健活動・保健管理：学校安全と危機管理、救急処置
14	保健教育：学校における保健教育の考え方、保健学習、保健指導、学習指導要領
15	保健教育：性教育、薬物乱用防止教育、食育

### 【履修上の注意事項】

授業の最後に次の授業内容を予告するので、その内容について事前学習しておく。また、授業の最後に振り返りのための課題を提示するので、それを踏まえて振り返りまとめておく。次の授業の最初に前回のまとめを提出する。

### 【評価方法】

筆記試験90%、レポート10%により評価する

### 【テキスト】

学校保健ハンドブック 第5次改定 教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい  
冊子「学校保健」松本敬子編、

### 【参考文献】

学校保健実務必携 第一法規

## 救急処置法

担当教員 古賀 由紀子、井手 裕子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- ①生命にかかわる緊急を要するような重大事故時に処置に対する、正しい判断ができる。
- ②学校現場での事故を予測し正しい知識と技術を身につけ児童生徒に対して応急処置ができる。
- ③心肺蘇生法ができる。
- ④救急処置対応計画を作成することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/救急処置の基本的知識（古賀）
2	学校救急処置について/学校における救急体制（古賀）
3	外傷時の救急処置（傷の種類とその処置）（古賀）
4	外傷時の救急処置（頭部外傷、眼部外傷）（古賀）
5	外傷時の救急処置（歯・口腔の外傷、熱傷等）（古賀）
6	外傷時の救急処置（骨折、捻挫、脱臼、打撲等）（古賀）
7	外傷時の救急処置（R I C E処置・止血・テーピング）（井手）
8	内科的疾患の救急処置（発熱、けいれん、頭痛）（古賀）
9	内科的疾患の救急処置（喘息、呼吸困難等の対応）（古賀）
10	内科的疾患の救急処置（腹痛、下痢等の対応）（古賀）
11	内科的疾患の救急処置（めまい等その他の対応）（古賀）
12	緊急時の救命処置（C P R理論）（古賀）
13	緊急時の救命処置（A E D理論）（古賀）
14	緊急時の救命処置（C P R実技1）（古賀）
15	緊急時の救命処置（C P R実技2）（古賀）

## 【履修上の注意事項】

実習に際しては適した服装で受講すること。課題を与えるので、各自調べておく。調べたことを授業の中で順次発表する。  
授業で扱った内容について自分で復習をしておく。次の時間に確認の小テストを実施する。

## 【評価方法】

小テスト30%, 定期試験70%として評価する

## 【テキスト】

- ・ 初心者のためのフィジカルアセスメント—救急保健管理と保健指導—永田利三郎 監修 東山書房
- ・ 赤十字救急法教本 ・ 赤十字基礎講習教本（講習時に販売）

## 【参考文献】

## 口腔保健衛生学

担当教員 北田 勝浩

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

口腔衛生の基礎として必要な知識を学び、口腔の健康を保持増進することの重要性を認識し、そのための理論と方法を説明できる。また、口腔の2大疾患であるう蝕および歯周病を中心に、不正咬合、顎関節症、口臭症、口腔乾燥症など様々な口腔疾患の病因・病態を学び、その予防法について体系的に理解を深め、概説できる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健衛生学の意義
2	歯・口腔の健康 (1) 歯・口腔の構造
3	歯・口腔の健康 (2) 歯・口腔の発生と成長・発育、機能、全身疾患との関連
4	歯・口腔の付着物・沈着物
5	口腔清掃 清掃の意義、口腔清掃法、歯磨剤・洗口剤
6	歯科疾患の疫学、指数
7	う蝕の予防 (1) う蝕の症状、分類、う蝕発生の要因・機序
8	う蝕の予防 (2) う蝕活動性、う蝕活動性試験
9	う蝕の予防 (3) う蝕の予防法 (第一次、第二次、第三次)、フッ化物の性状
10	う蝕の予防 (4) フッ化物応用
11	歯周疾患の予防 (1) 歯周疾患の症状、分類、発生の機序
12	歯周疾患の予防 (2) 歯周疾患の全身に与える影響、予防手段と処置
13	その他の疾患の予防 (1) 口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症
14	その他の疾患の予防 (2) 歯の形成不全、口臭症、口腔乾燥症
15	ライフステージごとの口腔保健管理

## 【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること。授業の内容について、十分に復習すること。

## 【評価方法】

レポート等の日常的学習成果 (20%)、定期試験 (80%) を総合して評価する。

## 【テキスト】

最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学第2版」、  
「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学」：全国歯科衛生士教育協議会監修 (医歯薬出版)

## 【参考文献】

新予防歯科学<第4版>：米満正美、小林清吾、宮崎秀夫、川口陽子、鶴本明久 編 (医歯薬出版)  
他、講義の中で適宜紹介する。

## 口腔保健統計学

担当教員 徳永 淳也

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

## 【授業のねらい】

口腔保健学における諸活動の効果的、効率的推進のため、歯科領域で蓄積されてきた各種統計資料や歯科関連統計データに習熟し、統計学を駆使した洞察力や判断力の涵養を目的とする。各種統計資料を用いて我が国の歯科疾患の変遷をとらえ、その評価方法やデータ把握手法を修得し、歯科疾患の疫学や評価指標、初等統計学を用いたデータ解析方法について理解を深め、問題把握と分析能力の修得をはかる。

## 【授業の展開計画】

1. 口腔保健統計学概論：保健情報と国家統計調査の概要を理解する
2. 歯科疾患の疫学：疫学の考え方、研究デザイン、データの数量化を理解し説明できる
3. 統計学入門：標本データの記述、代表値およびデータ特性を理解し分析に使用できる
4. 母数の推定と確率分布：正規分布の特徴を理解し推定、検定の違いを説明できる
5. 検定とは：その論理と手順について考え方を理解する
6. 二変数間の分析：独立性の検定を理解し分析ができる
7. 平均値の差の検定：t検定を理解し分析ができる
8. 多群間の平均値の比較：分散分析と多重比較を理解し分析ができる

## 【履修上の注意事項】

各種統計値の算出を行うので電卓を持参すること。妥当かつ信頼性の高い議論や仮説検証はどのようにして可能となるのか、について問題意識を持って講義に出席し、講義で得た分析手法については自分の手近なデータで繰り返し演習し修得をはかること。

## 【評価方法】

各講義で行う確認レポートで100%評価する。

## 【テキスト】

最新歯科衛生士教本 保健情報統計学 全国歯科衛生士教育協議会 編（医歯薬出版）

※口腔保健衛生学で使用した教科書を持参すること

## 【参考文献】

新歯科衛生士教本 口腔衛生学・歯科衛生統計（医歯薬出版）

歯科衛生士テキスト 口腔衛生学—口腔保健統計学を含む—（学建書院）

## 地域口腔保健学

担当教員 徳永 淳也

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

### 【授業のねらい】

地域社会はもとより、学校、職域をはじめとする人々の生活の場であるコミュニティ(共同体)において、その特徴を十分踏まえた支援や介入が求められており、口腔保健学的接近による対象の捉え方、考え方と具体的方策の理解が目的である。各対象に応じた地域口腔保健活動における、歴史、基本概念、目的、内容、方法についてその変遷をとらえ理解をはかり、各コミュニティを構成する人々の生活の質向上に資する保健医療福祉領域の多職種が共有すべき概念や具体的な問題解決手法についての修得を目指す。

### 【授業の展開計画】

1. 地域口腔保健学概論：地域における口腔保健学的接近とは
2. 公衆衛生活動と地域口腔保健の理解
3. 社会疫学概論：健康決定要因としての社会階層と口腔保健の関連の理解
4. 健康教育概論：意義と行動変容に対するアプローチの歴史的変遷の理解
5. 学校保健における口腔保健学的接近の意義の理解
6. 成人高齢者における地域口腔保健の目的と具体的取り組みの理解
7. 母子保健における口腔保健の目的と具体的取り組みの理解
8. 産業保健の歴史と職業特性に応じた口腔保健における取り組みの理解

### 【履修上の注意事項】

講義時に配布するプリントとともに、口腔保健衛生学(1年次開講)で使用した教科書(下記テキスト)を使用するので必ず持参すること。1学期に学んだ公衆衛生学や関連科目で獲得した考え方を、口腔保健領域に適用して考えることが必要となるので、健康問題への社会的アプローチの諸側面について復習して講義に出席し、口腔保健を通じた地域に対するイメージと視野を獲得できているか、常に自問し学修すること。

### 【評価方法】

各講義ごとに行う確認レポートで100%評価する。

### 【テキスト】

最新歯科衛生士教本 保健生態学 全国歯科衛生士教育協議会 編 (医歯薬出版)

※口腔保健衛生学(1年次開講済)で使用した教科書

### 【参考文献】

シンプル 公衆衛生学2017 鈴木庄亮監修 小山洋、辻一郎編集 ※公衆衛生学で使用した教科書  
歯科衛生士テキスト 口腔衛生学—口腔保健統計を含む— (学建書院)

## 保健福祉行政論

担当教員 福本 久美子、河谷 はるみ、中川 武子、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1. 地域の人々の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する必要性について理解できる。2. 保健医療福祉行政の仕組み、地域の健康課題に必要な社会資源の開発、評価等の基礎となる法律・制度・政策について理解できる。

## 【授業の展開計画】

教科書およびその内容理解を助けるプリントを配布し、以下の内容について講義を進める。

週	授 業 の 内 容	
1	福本	保健医療福祉の行政の理論と機能①
2	福本	保健医療福祉の行政の理論と機能②
3	福本	保健医療福祉の財政
4	福本・中川・未定	保健医療福祉行政の計画と評価①GW
5	中川	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷①
6	中川	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷②
7	福本	社会保障制度と公衆衛生行政
8	未定	地域保健の制度①
9	中川	公衆衛生に関する国際的な活動
10	河谷	社会保障制度（社会福祉）
11	福本(外部)	医療制度（医療提供体制）
12	福本(外部)	地域保健の制度と実際の運用
13	福本・中川・未定	保健医療福祉行政の計画と評価②GW発表
14	福本(外部)	介護保険制度
15	福本・中川・未定	保健医療福祉行政の計画と評価③GWまとめ

## 【履修上の注意事項】

- 1) 予習復習を行い、講義に積極的に参加すること。
- 2) グループワークや討論など参加型の手法を取り入れるため、授業以外の学習時間を活用し課題を整理することが必要になるため、学生間で調整を行い、グループ学習を進めること。

## 【評価方法】

レポート（60%）、GWと発表（40%）

レポート提出先：教務課

## 【テキスト】

『これからの保健医療福祉行政論』日本看護協会

## 【参考文献】

『国民衛生の動向』厚生統計協会、『国民福祉の動向』厚生統計協会、『蘇陽風とくらしと健康』熊本日日出版社